

教育目標	心身ともに健やかで たくましく 未来へつながる子どもの育成
年度末の最終評価	<div data-bbox="167 517 1431 1077"> <p><b>自己評価</b></p> <p><b>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</b></p> <p>今年度は園内研究テーマでも健やかな心と体の育成をねがい、毎日全園児が『幼稚園は楽しい』『明日も行きたい』と登園することをめざしてきた。昨年と同様に体調不良で欠席があり、全員揃って保育できる日は少なかったが、毎日朝体操をしたり、広い園庭を活かし、体を動かして遊んだりすることを大事にしてきた。朝一番に体操をすると気持ちよく一日がスタートできる姿が見られ、友達や教師と一緒に遊びや生活の中で自分の思いや力を発揮し、満足感や達成感を味わえるようになってきた。育ちをコツコツと積み上げていくことを大切にしていきたい。</p> <p>また、今年度はキンダーカウンセラーの巡回訪問を試行的に受けることができ、保護者の子育てに対する不安などを受け止めてもらうことができた。また、教師も具体的に乳幼児の発達心理や援助の方法を学ぶことができ、自らの保育の充実につながった。今年度の成果や課題を振り返り、次年度も一人一人が安心安全に過ごし、人との関わりを通して遊びを試し工夫し、深めていけるように、教師の援助や環境構成を考えていきたい。</p> </div> <div data-bbox="167 1084 1431 1417"> <p><b>学校関係者評価</b></p> <p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>子どもの人数は昔から減っているが、保育園に行く人も多い。地域でも幼稚園へ行くことを進めてはいる。教員の数から考えると、一人一人を丁寧に見るのにはちょうどよいのではないかと 思う。これからも地域の幼稚園、小学校、中学校と協力しながら、保育を進めていってほしい。</p> </div>

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	6月中旬	学校運営協議会（サンサンキッズ）
最終評価	3月	学校運営協議会（サンサンキッズ）

## （１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「安心・安定」を基盤とした園生活の中で健やかに過ごし、自己発揮や協同性を育むための環境構成、学年や個々の発達に応じた教師の援助を考え、幼児期に育てたい資質・能力を意識した教育課程の作成・見直しを図る。</li> <li>・感動体験につながる園外保育や栽培活動・地域の方との関わりを大事にするとともに、遊びや生活との連続性をもった保育実践をする。</li> <li>・幼稚園きょうだいを意図的につくり、年間を通して異年齢児が関わる機会を設定し、憧れや思いやりの気持ちが育つようにする。</li> <li>・未就園児とのつながりがもてる機会を設定する。</li> <li>・若年教員の良さを生かした保育の質向上を願い、幼児教育の基礎基本を学び合う。自然との関わり、絵本やリズム遊び、運動的な遊び、造形活動など体験を通して行う保育の見直しを通し、幼児が主体的に自己を発揮する環境や教師の援助を見直す。</li> </ul>
--------	--

**(取組結果を検証する) 各種指標**

- ・子どもの姿の変容、研究保育、事例検討、週案の反省・記録・評価の記述
  - ・アンケート項目
- ① 「幼稚園を楽しいと感じている」
  - ② 「友達や先生と関わることを楽しんでいる」
  - ③ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」
  - ④ 「体を動かして遊ぶことが好きである」
  - ⑤ 「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」
  - ⑥ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」
  - ⑦ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かい関わりをしている」
  - ⑧ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」
  - ⑨ 「キンダーカウンセラーの配置で相談がしやすくなった」

中間評価

**各種指標結果**

- ・子どもの姿の変容、研究保育、事例検討、週案の反省・記録・評価の記述
  - ・アンケート項目
- |                                    |               |
|------------------------------------|---------------|
| ① 「幼稚園を楽しいと感じている」                  | A 88 %・B 12 % |
| ② 「友達や先生と関わることを楽しんでいる」             | A 88 %・B 12 % |
| ③ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」      | A 70 %・B 30 % |
| ④ 「体を動かして遊ぶことが好きである」               | A 66 %・B 29 % |
| ⑤ 「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」    | A 48 %・B 29 % |
| ⑥ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」 | A 86 %・B 13 % |
| ⑦ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かい関わりをしている」  | A 59 %・B 33 % |
| ⑧ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」     | A 30 %・B 32 % |
| ⑨ 「キンダーカウンセラーの配置で相談がしやすくなった」       |               |

自己評価

**分析 (成果と課題)**

- ・園内研究における実践事例の検討や研究保育を通して、教師の援助、環境構成の見直し等、若手教員が年数を重ねてきて研修の成果が活かされてきている。また、引き続き、育支援センターの巡回指導を受け、子どもの育ちや課題を共有し、言葉や表情、しぐさなどから子どもの気持ちを読み取ろうとする幼児理解につながっている。
- ・キンダーカウンセラーの訪問を試行的に行うことで、乳幼児の発達や心理的な面から専門家の意見を聞き、保護者の安心や教員の学びにつながっている。認知度もこれから上がると考える。
- ・自然物との関わりでは、年長児が種からの栽培物を育て、花の苗屋さんを開き、地域や保護者に苗をもらってもらった取組をした。収穫や開花に触れ、自然物への興味関心が育ったと考えている。家庭でも収穫した野菜を使って料理するなど、保護者の意識も変わってきている。
- ・⑥については、常に評価が低い項目である。個人差はあるが、基本的な生活習慣が子どもたちに自信と自立心を育み、自己発揮できる姿につながることを保護者と共有できるように、「朝体操」の取組をしてきた。今後も家庭と連携していきたい。
- ・⑧に関しては、毎日の保育の発信方法を新たに考え、理解していただけるように努力したことで預かり保育の保護者にも保育の様子が伝わりやすくなったのではないかと考える。

**分析を踏まえた取組の改善**

- ・子どもが心を動かし、試したり挑戦したりするためには、保育環境の工夫、教職員の共通理解の他に、家庭の影響も大きい。基本的な生活習慣の自立や人との関わりが心の安定や意欲、自信につながることを踏まえ、家庭との連携を深め、より保育の質向上をめざしていきたい。指導案・週案の反省・評価を基に、今後も子どもたちの遊びや生活が充実できるように環境構成など充実していきたいと考えている。また、今年度は研究報告も予定している。
- ・子どもが主体的に遊び、充実感や達成感を味わえる保育をめざしている。互いの保育を見直し、十分に検討し合っている。若手教員の相談にも教員みんなで話し合い、意見交換することができている。今後も互恵性のある関係を大事にしたい。

**(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標**

- ・子どもの姿の変容、研究保育、事例検討、週案の反省・記録・評価の記述
  - ・アンケート項目
- ① 「幼稚園を楽しいと感じている」
  - ② 「友達や先生と関わることを楽しんでいる」

	③ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」 ④ 「体を動かして遊ぶことが好きである」 ⑤ 「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」 ⑥ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」 ⑦ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かい関わりをしている」 ⑧ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」 ⑨ 「キンダーカウンセラーの配置で相談がしやすくなった」
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> ・運動会を見せてもらった。子どもたちがのびのびと成長していると感じた。 ・年中児や年長児は身体もしっかりとして成長がよく見えた。どの子どもも元気に育ってほしい。子どもたちが力を発揮できるようにされている様子が素敵だった。 ・運動会で保護者が協力しながら子どもへの声かけをされて自分たちの子どものことを思い出した。これから子育てをする方々にエールを送りたい。

#### 最終評価

	<b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b> ・子どもの姿の変容、研究保育、事例検討、週案の反省・記録・評価の記述 ・アンケート項目 ① 「幼稚園を楽しいと感じている」 A 87 %・B 13 % ② 「友達や先生と関わることを楽しんでいる」 A 82 %・B 18 % ③ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」 A 70 %・B 30 % ④ 「体を動かして遊ぶことが好きである」 A 76 %・B 20 % ⑤ 「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」 A 54 %・B 37 % ⑥ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」 A 91 %・B 7 % ⑦ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かい関わりをしている」 A 72 %・B 26 % ⑧ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」 A 41 %・B 30 % ⑨ 「キンダーカウンセラーの配置で相談がしやすくなった」
自己評価	<b>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b> ・【主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践研究】を行ったことで、実践事例や研究保育を通して、教師の援助、環境構成の見直し等、若手教員が研修の場を多くもつことができ、自らの保育を高めようとする姿が見られた。他の教職員も子どもの育ちや課題を園内で共有し、言葉や表情、しぐさなどから子どもの気持ちを読み取ろうと幼児理解を深めることができた。幼児理解の深まりが、健やかな心や体の成長を促すことにつながった。 ・キンダーカウンセラーの巡回訪問が始まり、子どもの姿を見て保護者の相談を受けることで具体的な援助の方法を教員も共に学ぶことができ、乳幼児の発達や心理面など知り、保護者の安心感につながったことで、保育の改善や充実につながった。 ・⑥については、基本的な生活習慣に着目して前期に取り組んだことで、子どもたちに自信と自立心を育み、自己発揮できる姿につながってきた。「朝体操」の取組をしてきたことで、保護者の意識も変わり、体を動かすことで一日を気持ちよくスタートできるようになった。今後も家庭と連携していきたい。 ・⑧に関しては、全園児での生活発表会を開催したことで、普段の保育の様子（教師の援助）を感じることができ、保護者にも保育の良さが伝わったのではないかと考える。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> ・乳幼児の発達や心理面について学ぶことができたが、今後もキンダーカウンセラーの巡回を通して、保護者や協力機関との連携を深め、幼児理解を深めていきたい。 ・今後、友達や周囲の人との関わりを通して、子どもたちが試行錯誤し、遊びがより深まっていくような取組ができるように、教師の援助、保育環境を考え、保育を充実していく。

学 校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	絵本の読み聞かせや作品展など関わらせてもらったが、子どもたちは一生懸命でいつの時代も子どもは変わらないと感じた。
	いつも朝に会うと挨拶してくれる子どもがいる。大事なことが身についていると感じた。
	朝に来にくい子どもたちは、保護者同士のつながりで改善されていけばいいと思う。

## （２）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接する実践校や近隣の保育園と架け橋期の共通理解を行うために、就学前、就学後の連絡会・保育、授業参観・幼小中合同研修・作品展見学等を通して互いの教育への理解を深める。</li> <li>・「就学支援シート」の活用、「個別の指導計画」の作成・引き継ぎ</li> <li>・健やかな心や体を持ち、遊びや生活の中で経験を積み重ね、自ら充実感や達成感を味わう子どもを育む教師の援助や環境構成を考える。「自ら学ぼうとする力」「自ら律する力」を育てる保育を推進、小学校へとつなげる。</li> <li>・『幼保小の架け橋プログラム』に向かい、保育園とともに幼児教育の質を高めていく。</li> <li>・「親子で絵本！」のノートを活用しながら、絵本や物語に親しみ、創造する楽しさを味わうなど、言葉や文字、数量に対する感覚の基礎を培う。</li> </ul>	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した教育課程の作成・見直し</li> <li>・『幼保小の架け橋プログラム』の接続期を意識した5歳児教育課程の見直し</li> <li>・保育園、小学校との接続、施設利用状況、公開保育の事前事後研修の実施</li> <li>・「親子で絵本！」の活用状況</li> <li>・アンケート項目</li> </ul>	
① 「近隣の保育園、小学校、中学校とのつながりを大切にしている」	
② 「親子で絵本を読む時間を大切にしている」	

### 中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した教育課程の作成・見直し</li> <li>・『幼保小の架け橋プログラム』の架け橋期の育ちを小学校と共に考える</li> <li>・保育園、小学校との接続、施設利用状況、公開保育の事前事後研修の実施</li> <li>・「親子で絵本！」の活用状況</li> <li>・アンケート項目</li> </ul>	
① 「近隣の保育園、小学校、中学校とのつながりを大切にしている」	
② 「親子で絵本を読む時間を大切にしている」	
自 己 評 価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校が架け橋プログラムの実践校2年目となり、架け橋期の取組をしようと進んでいる。幼稚園のウェルカムデー（参観）、年長児の苗屋さんなど、小学校の教職員、中学生、地域の方が足を運んでいただく機会を今年度ももつことができた。1学期に1年生の音楽の授業で交流をしたり、苗屋さんに1年生が来てくれたり、隣接している小学校への親しみを子どもたちはもっている。保育園を含めた交流も実現しており、事前事後の研修なども時間を取れるようになっている。どの教員も引き継いでいけるカリキュラム作成については課題を残している。</li> <li>・交流をした後のエピソードの作成をし、幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した教育課程の作成・見直しが必要である。</li> <li>・小学校との交流や施設利用状況 →ウェルカムデー（参観）の実施、校庭や授業の参加、運動会参観・1年生や地域保育園との交流、事後研修の内容をより深めていく。</li> <li>・「親子で絵本！」の活用状況 →目指せ100冊の達成状況（個人差がある）では、幼児期に親子で絵本を読む時間を持つことが少なくなっている。</li> </ul>

学 校 関 係 者 評 価	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校とは架け橋期を意識した取組が進み、教職員同士の関わりも進んでいるが、地域の幼児教育施設との交流を深め、幼児教育の質を共に向上していけるように努力が必要である。</li> <li>・親子で絵本を読む時間が少ないことを危惧している。親子で絵本に親しむことは、心を豊かにするだけではなく、想像力や感性を培い、小学校以降の読む・聞く・理解する・書く力につながっていくことを、機会を設けて伝えていく必要がある。興味をもっている図鑑だけでなく、お話の絵本をお家の人に読んでもらうことで創造の世界が広がり、心が育つことも伝えていきたい。</li> </ul>
	<p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携のエピソード作成</li> <li>・前期との比較、検討を行なうことで取組の改善を検討</li> <li>・『親子で絵本』の活用度</li> <li>・教職員同士の合同研修会の実施</li> <li>・アンケート項目</li> </ul> <p>① 「幼稚園は保育園・小学校・中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしている」</p> <p>② 「親子で絵本を読む時間を大切にし、興味が広がってきている」</p>
	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み聞かせなど、引き続き協力していきたい。</li> <li>・1年生と年長児との交流や連携も広がってきて、幼稚園の様子や園児の姿がよく見られるようになってきた。</li> </ul>

#### 最終評価

自 己 評 価	<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携のエピソード作成</li> <li>・前期との比較、検討を行なうことで取組の改善を検討</li> <li>・『親子で絵本』の活用度</li> <li>・教職員同士の研修会の実施</li> <li>・アンケート項目</li> </ul> <p>① 「幼稚園は保育園・小学校・中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしている」 A 80 % ・ B 20 %</p> <p>② 「親子で絵本を読む時間を大切にし、興味が広がってきている」 A 54 % ・ B 37 %</p>
	<p><b>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小の架け橋プログラムの取組は、昨年度よりも教員同士が話し合い、園児と児童が関わる機会をもてたことが大きな成果である。音楽の授業を見学したこと、1年生の運動会の種目を共に経験したこと、音楽発表会のリハーサルで共に歌えたこと、秋みつけの取組に参加したこと等により、1年生になることに期待がもてる子どもが多くいる。『もうすぐ2年生』の取組では、1年生になることを楽しみにできるように児童がお楽しみ会を企画し、小学校の生活を知る機会となった。同じ組の1年生との出会いが、親しみをもち、思いをつなぐことができた。</li> <li>・幼稚園の『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践研究』では、実践報告会に小学校の先生に参観、研修にも参加していただくことができた。そのことにより、幼児期の育ちや教師の援助、幼児期に大事にしていることを知ってもらうことができた。まだまだ幼児教育を発信していく努力は必要だが、互いの教育を知りながら、気持ちの良い関係性を構築していきたい。</li> <li>・来年度に向けては、今年度よりも一歩進んだ具体性のある研修をしていきたい。</li> <li>・親子で絵本に親しむ機会には個人差がある。幼児期にお家の人に読んでもらう幸せな経験をたくさんした子どもは、大人になっても幸福感が大きいことを繰り返し伝えていきたい。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園と保育園、小学校が集まり、育てたい共通の視点を明らかにし、事前、事後研修で互いの子どもたちの育ちを具体的に共有できるような取組（記録をもとに）を考えたい。</li> </ul>

学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>幼保小の架け橋プログラムでは、一緒に取り組みれば取り組むほど発見がある。幼稚園の先生の声掛けが参考になったり保育園での生活を知ったり、遊びを通して学んできた幼児期の育ちを理解することができる。それを小学校では授業に活かしていこうとしている。</p>
---------	--

### (3) 預かり保育に関して

<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 預かり保育指導計画の実践、見直しをし、預かり保育における遊びの多様性を図る。</li> <li>・ 園生活が充実し、無理なく過ごせるように、興味ある遊びを実現できる環境づくりや支援をする。</li> <li>・ 特に早朝や18時の預かり保育では、温かい声かけを心がけ、保護者との連携を深める。</li> <li>・ 子どもにとって安心できる場となるように、担任や教職員が緊密な連携を取る。</li> <li>・ 満3歳児の預かりを試行し、安心して過ごせる居場所となるよう模索する。</li> </ul>	
<p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 預かり保育の参加人数・預かり保育をする中での子どもの育ち（異年齢のかかわりなど）</li> <li>・ アンケート項目から</li> </ul> <p>「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」</p>	

### 中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <p>「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」</p> <p style="text-align: right;">A 90%      ・      B 10 %</p>	
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新2号認定を申請して就労する保護者の増加とともに、預かり保育の参加人数は増えている。安心してありのままの思いを出し、異年齢での子どもとの関わりも見られるが、年齢が低いほど預かり保育を利用する傾向にある。幼い子どものことを思うと、ゆっくり保護者と過ごすことも大切であることを感じるが、可能な範囲で子育ての支援をしていけるように考えている。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 預かり保育をすることによって、保護者の就労やゆとりの時間への意識が高まり、働きながらも幼稚園に在園できることが定着しつつある。保育者は子どもの思いに寄り添いたいと努力しているが、個々の発達の違いもあり、園全体でサポートしていく必要がある。</li> <li>・ ゆったりと自分の好きな遊びができる時間なので、保育中には見られなかった集中力や発達の伸びが見られることもある。担任と預かり保育担当者との連携により、保育と預かり保育が連動していくことの大切さを感じる。</li> <li>・ 新しい遊具や遊び方、内容を見直し、家庭的な雰囲気の中でも変化をつけて子どもにとって新鮮で楽しい時間になるように工夫する。</li> <li>・ 担当の教員と担任、保護者が連携を取りながら、子どもの思いに寄り添い、子どもが安心して過ごせる場づくりをしていく。</li> <li>・ 預かり保育に参加した家庭への伝達を新たにすることが活かされ、保育の理解へとつながっている。</li> </ul> <p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 預かり保育の取組を努力していることを感じる。読み聞かせや体を動かす遊びなど、子どもたちのために協力できることはしていきたい。</li> </ul>

## 最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」      A 63%      ・      B 18 %	
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新2号認定を申請して就労する保護者の増加はもちろん、1号認定でも預かり保育を利用する参加人数は増えている。幼稚園でも預かり保育を気軽に利用できることが定着しつつある。安心してありのままの思いを出し、異年齢での子どもとの関わりも見られ、年齢が大きい子どもが小さい子どもの面倒を見るなど、後期になるとそのような育ちも見られる。幼い子どものことを思うと、ゆっくり家庭で過ごすことも大切であることを感じ、家庭と切り離さないように意識し、できる限りは子育ての支援をしていけるように考えている。</li> <li>・ホッとした夕方に子どもの本音が出ることもある。預かり保育担当者と担任が連携し、一人一人の子どもの家庭背景や幼稚園での様子から、心身の健康を保てるように援助していきたいと考える。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育の内容の見直し（イベント、環境構成など）を行い、核となる通常保育とつながるような内容を考えていく。</li> <li>・他学年の交流の場となり、年長児が年下を見て、学年の枠を越えて関わる機会となっている。</li> <li>・より預けやすい取組となるように、教職員で幼稚園の役割について理解し、協力していく。</li> <li>・教職員の時間外勤務の超過を減らすなど、事務の効率化を進めていく。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>預かり保育に中学校の教員がゲストティーチャーで相撲遊びの場を設定したが、子どもたちはどうだったかなと思っていた。何度も取組を楽しみ、押したり踏んばったり、普段使わない動きをすることで面白さを感じていた。また、さまざまな運動を楽しむきっかけになってほしい。</p>

## （４）子育ての支援に関して

<b>具体的な取組</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児ぶちたんぽぽ組（2歳児親子）を毎週（月、金）に増やし、引き続き乳児から幼児への発達に応じた遊びや場を提供し、人への安心感や信頼感を構築する。</li> <li>・保護者同士が子育ての楽しさを共有したり、乳幼児期の発達を知る機会にしたりする</li> <li>・園庭開放の時間を設け、心と体を解放して遊ぶ場を提供する</li> <li>・在園児保護者と未就園児保護者が子育てについて語り合える場（説明会）を提供する。</li> <li>・ほっこり子育て広場の取組として、誕生会の後、保護者と園長との懇談の場を設ける。</li> <li>・社会福祉協議会「福ちゃん組」における連携、及び地域子育てステーション事業における連携をする。</li> <li>・地域の幼児教育の場として、幼児期に育てたい力について発信できるようにする</li> </ul>	
<b>（取組結果を検証する）各種指標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の取組（こっこ組、ぶちたんぽぽ組）の参加人数</li> <li>・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子</li> <li>・未就園児保護者の話の内容から・小規模保育事業への発信</li> </ul>	

## 中間評価

<b>各種指標結果</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の取組（こっこ組、ぶちたんぽぽ組）の参加人数   ⇒     47人</li> <li>・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子   ⇒   子どもの可能性について話し合う</li> <li>・未就園児保護者の話の内容から…   おむつを外すタイミングや入園についての心配ごと</li> <li>小規模保育事業との交流…   ミニコンサートや説明会へ来園、チラシの配布</li> </ul>

自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・0～1歳児の子育て支援の参加人数（登録）は少し減ったが、2歳児親子の組は増加している。2歳児親子の取組は4年目になり、定着しつつある。2歳児親子の誕生会を在園児と同じ誕生会に招待することで、在園児にとってもぷちたんぽぽ組を知る機会となっている。</li> <li>・未就園児保護者が教育相談を利用しながら、在園児の遊びや生活の様子を垣間見て、幼児の発達を知ったり、教職員の雰囲気を感じ取ったりすることができ、利用している親子にとっては、人と関わる場になっている。また、ぷちたんぽぽ組は2歳児親子の取組であるが、同じ学年の親子が集うので、親子共に知り合いになり、温かい雰囲気になってくる良さがある。</li> <li>・今年度は、2歳児親子と在園児年少組の運動会を一緒にしたことで、入園してからの年少児の育ちや教師の関わりを身近に感じてもらう機会となった。</li> <li>・おひさまタイム（子育て語り合い）を行うことができ、在園児保護者同士が話す機会が増えて、学年を越えた保護者のつながりが持てるようになってほしい。</li> <li>・乳児からの成長を見守ることが楽しみである。また、在園児も愛らしい乳児の姿から、親しみ、自分の成長を感じ、小さい子どもを思いやる気持ちで関わっている。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぷちたんぽぽ組（2～満3歳児）の取組を今年度も進歩させたので、子どもはもちろん、保護者同士の触れ合い、つながりを持つ機会になることを、より外部へとアピールする必要がある。また、来年度に向けて、内容を検討し、子育て世代が子育てを楽しめる場にしていく。また、在園児との触れ合いの場を増やし、園児の一員として全教職員で関わっていく。</li> <li>・幼児教育施設が子どもを育てる幼児教育の専門家として誇りをもてるように声をかけたい。</li> </ul>
	<p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の取組（こっこ組、ぷちたんぽぽ組）の参加人数</li> <li>・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子</li> <li>・未就園児保護者の話の内容から・小規模保育事業との交流</li> </ul>
	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会を見せてもらったが、2歳児親子と満3歳児が参加しており、親子の大切なふれあいの場でお父さんとの良い関係を感じられてよかった。これからもこのような機会を増やしてください。</li> </ul>

#### 最終評価

自己評価	<p><b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の取組（こっこ組、ぷちたんぽぽ組）の参加人数 ⇒ 56人（中間より9人増）</li> <li>・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子 ⇒ 保護者自身を振り返ってもらう</li> <li>・未就園児保護者の話の内容（食事面の心配等）・小規模保育事業との交流 ⇒ 報告会に参加あり</li> </ul>
	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぷちたんぽぽ組（2歳～満3歳児）の取組を、今年度は満3歳児になれば、子どものみの参加ができるようにし、午後からの預かり保育も可能にした。参加が多く、目が離せない不安もあるが、満3歳になりたての子どものありのままの飾らない姿に、この時期に丁寧な関わりをすることが、子どもや保護者の安心につながり、家庭の教育力を高めることを学んだ。在園児の行事にも参加し、園児の一員として仲間意識がもてるように全教職員で関わってきたことも信頼関係をつくることになった。また、来年度に向けて、内容を検討し、子育て世代が子育てを楽しめる場にし、親子を切り離すことのないように考えていきたい。</li> <li>・幼児教育施設が子どもを育てる幼児教育の専門家として誇りをもてるように、入園後も保護者との信頼関係を丁寧につくっていききたい。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼い子どもだけに、人数が増えると見切れず、危険が起こらないように全教職員で気を付けて</li> </ul>

	いきたい。現状を維持しながら、継続できるような新しい取組を考えていきたい。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>土日近く公園で遊ぶ子どもの姿が多くなった。大きい子どもが遊んでいると危険を感じることもあるので、未就園児が遊ぶ場として、充実させていってほしい。</p>

**（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して**

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「金札宮こどもみこし」や「板橋祭」の参加</li> <li>・豆ごはんやカレーパーティーの買い物体験（年長児）</li> <li>・花の苗屋さんの取組</li> <li>・女性会によるお茶会体験や、地域のお年寄りとの触れ合い交流（年長児）</li> <li>・幼中連携における中学生との交流（チャレンジ体験や触れ合い）</li> <li>・学校運営協議会を中心とし、幼児教育への理解、相談、協力を得られるようにしていく。</li> </ul>	
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の回数や内容</li> <li>・子どもの姿や保護者・地域の方の声</li> <li>・アンケート項目</li> </ul> <p>① 「地域とのかかわりを大切にしている」</p>	

中間評価

<div>各種指標結果</div> <p style="text-align: right;">A 73 % ・ B 27%</p> <p>「地域とのかかわりを大切にしている」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の回数や内容</li> <li>・子どもの姿や保護者・地域の方の声</li> </ul>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <p>・5月の「金札宮こどもみこし」に希望者が参加、「板橋祭」にPTAや子どもたちが参加するなど、地域との関わりが戻りつつあり、子どもたちにとっては思い出となる経験をしている。また、保育の中では、豆ごはんやカレーづくりの材料を年長児が地域に出て買い物をする、図書館に絵を展示する、年長児が育てた植物を花の苗屋さんの実施で地域の方が足を運んでもらってくださる、育った植物の生長を伝えてくださる、3歳児が地域の公園に出かけるなど、小さなことをコツコツと積み上げてきた。子どもたちが伏見の町を【ふるさと】と親しみが持てるようにしていきたい。今後も新しい取組を考えていきたい。地域の子どもは地域で育てるという意識が根付いているので、人とつながる大切さを伝え、これからも保育に活かしていきたい。</p>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史ある幼稚園を残していきたい気持ちも強く、変えていくべきこと、残していくべきことを見極め、地域の活性化の一端となれるように地域と共に歩んでいきたい。</li> <li>・今年度もさまざまな地域の行事が元に戻り、運動会にも地域の方々にお越しいただき、子どもたちの成長を身近に感じていただくことができた。これからも、幼稚園の取組や子どもの姿を知って頂く機会を設け具体的に伝えていきたい。</li> <li>・預かり保育の時間を利用して、学校運営協議会の方に絵本の読み聞かせや手遊びを行っていたき、直接子どもたちとかかわる機会や保育参観などに来ていただく。</li> </ul>
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <p>「地域との関わりを大切にしている」アンケート項目</p>

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の幼稚園でもあり、先生たちは公務員としての立場でもある。子どもたちが安心、安全に暮らしていけるようにお願いしたい。</li> </ul>
---------	--

#### 最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>「地域との関わりを大切にしている」 アンケート項目</p> <p style="text-align: right;">A 80 % ・ B 20%</p>	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性会の方によるお茶体験や社会福祉協議会の方による地域交流会 (昔遊び)、学校運営協議会理事の方による絵本読み聞かせ、相撲体験、ボール遊びなどご協力いただいた。丁寧に関わっていただき、保護者や先生以外と関わることで、子どもたちが伏見の町を【ふるさと】と感じ、親しみをもてる機会となったのではないかと。地域の全ての方に関わり、子どもの成長を感じてもらふ機会は難しいが、保護者からも概ね理解を得られたと考える。</li> </ul> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも地域の子どもとして、地域の方々と触れ合える機会をつくっていききたい。</li> <li>・学校運営協議会の方々に、幼稚園の保育の様子を見ていただき、園の取組や子どもの育ちに触れ、幼児教育の大切さや育ちを感じていただきたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>昔遊びで関わったが、小さい子どもは好きなので、また声をかけてもらい、関わっていききたい。中学生のチャレンジ体験ではお世話になった。中学生も幼児と関わっていると普段見せない優しい表情や関わりをしている。非常にいい経験をさせてもらっている。</p>

### (6) 教職員の働き方改革について

重点目標	<p>○ウェルビーイングを目指し、「働きやすさ」「働きがい」を進め、より一層の保育の質向上を図る。</p>
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週水曜日ノー残業デーとする。</li> <li>・職員会議を週2日にし、常に報告、連絡、相談を大事にする。</li> <li>・土日、祝日及び、緊急の場合を除き、平日の18時以降の電話対応は控える。</li> <li>・教職員同士のコミュニケーションを大事にし、互いの思いを共有し、支え合えるようにする。</li> <li>・預かり保育実施により、時間外勤務が増えることがないように全教職員が意識する。</li> <li>・働き方改革に関する話し合いや研修を行う。</li> <li>・園内OJTを通じて、若手教員を支援する体制を整える (キンダーカウンセラー試行配置)。</li> </ul>
(取組結果を検証する) 各種指標	<p>① 「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」</p> <p>② 「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」</p> <p>③ 「対話を大切にした若手教員に対する園内研修の実施など」</p>

#### 中間評価

各種指標結果	<p>① の指標に関して、出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識し、管理職から声かけをしている。</p> <p>② の指標に関して、日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている。</p>
--------	--

③ 「対話を大切にした若手教員に対する園内研修の実施など」 日常の中で意識して行われている	
自己評価	<b>分析（成果と課題）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事内容やもち方の見直し、アプリ導入により事務の効率化を図ることはできているが、一部の教職員に負担とならないようにしていきたい。校務支援員や総合育成支援員の配置で、教職員の業務負担は軽減されているが、常に互いが声を掛け合い、サポートする体制を大事にしたい。</li> <li>・時間外勤務を控えようとする意識が常にもてるよう、教職員に優先順位を考えて業務を進められるように声をかけていく。</li> <li>・朝の会議を週1回にしたことで、より報告連絡を欠かさないようにする意識につながっている。</li> <li>・水曜日のノー残業デーは、実行できず、課題となっている。</li> <li>・若手教員との対話はスムーズと思われる。若手が活躍できる業務もあり、全教職員互いに得意分野で支え合おうという意識が今年度もできている。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、行事内容やもち方の見直しを図る。</li> <li>・検討事項の精選や事前事後伝達、時間を決めるなどし、会議時間の短縮と効率化を図る。</li> <li>・担任業務の繁忙を校務支援員に協力してもらうことで、分散化することができるよう今後もしていく。しかし、担任としての必要な業務は責任を持っていく。</li> </ul>
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b> <p>「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」  「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」  「教職員の年休取得状況」</p>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に留意して、それぞれの立場で活躍してほしい。</li> </ul>

#### 最終評価

<b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b> <p>「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」<b>概ね達成</b>  「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」→ 概ねできている  「教職員の年休取得状況」→ 必要な時には取得することができている</p>	
自己評価	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の出退勤システムの記録を見ることで、時間外勤務の時間数を意識して勤務するようになっていくが、行事や研究報告の前には遅くなることもあった。どうしても休日には家庭で持ち帰り仕事があるので、実情としては難しい。</li> <li>・一人一人が働き方を見直し、全教職員で支え合い、乗り越えていくことはできている。</li> <li>・全教職員が必要と考える年休を取得することができた。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の勤務時間については、常に意識していく必要がある。全教職員でウェルビーイングをめざし、心身共に健康で元気に働きがいのある職場をつくっていきたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <p>働き方改革のリーフレットなどもあるが、時間の都合や良好な関係を保つためには、詳しい説明などは難しい。地域でのイベントなどは、園としては動員や協力を減らす取組をしている。大半の方には理解していただけていると思う。</p>

